県協会だより

第　46　号
令和４年４月16日
発　行
鳥　取　県
バドミントン協会
総務本部総務部

令和４年度スタートにあたり

会　長　福浜　隆宏

例年以上に目映く、満開の桜が目に飛び込んできたと感じたのは私だけでしょうか。２年を経過して先がまだ見えない新型コロナ対応。新型コロナ予防対策で、満足のいく練習すらままならず、各大会も感染予防に留意しながらという対応を余儀なくされています。選手のみなさま、そして選手を支える指導者やご家族、大会関係者、全ての皆さまに敬意と感謝の気持ちを込めて御礼申し上げたいと思います。併せて今しばらくコロナ対応を継続せざるを得ませんが、適宜柔軟な対応で「選手ファースト」を実践していただきますようお願い申し上げます。

去る３月１９日に開催された令和３年度第２回代議員会により、令和４年度の事業計画と予算案、規約改正などの諸議案を全会一致で承認していただきました。今年度は、S/J リーグが１２月４日に鳥取県民体育館で、中国レディース選手権クラブ対抗と年齢別対抗が５月２８～２９日に米子産業体育館で、中国シニア選手権が１０月２１～２３日に鳥取県民体育館で予定されているのをはじめ、２年後のパリ・オリパラ開催年にあたる令和６年度に、去年コロナで中止となった全日本社会人選手権の鳥取開催に向けて、再度実行委員会を立ち上げる予定にしております。

本協会の最大の課題は「人材育成」と感じております。協会役員や審判も含めて世代交代を図っていかなければなりません。『自分がやれば良い』『あの人に任せておけば』ではいつまで経っても人材は育ちません。そうした意味も込めて、大会の開催はノウハウの継承に繋がるものと思っています。

バドミントン競技を愛する選手の思いに応えていくために「継承」の意識を改めて強く持っていただけるとありがたい限りです。

結びに４月３日、２０２０年の東京オリパラより正式種目になったパラバドミントンの県協会が発足しました。今後、本協会との結びつきを深めバドミントン愛好者の底辺拡大に寄与して参りたいと思っております。各方面でご協力をいただく場面もあろうかと存じますが、障がいや世代を超え、より多くの県民のみなさまが楽しくバドミントンを出来る環境づくりに向けてお力添え賜りますようお願い申し上げます。

令和４年度を迎えて

理事長　源　憲 治

令和３年度も２年度に引き続き、コロナで始まりコロナで終わる１年となりました。協会事業においても中止せざるを得ない事業もありました。なかでも全日本社会人選手権大会、Ｓ／Ｊリーグ２０２１鳥取大会においては、会員の皆さんにご協力をいただきながら準備を進めてきましたが、中止となり残念に思います。

新型コロナの影響は、会員登録、会員の皆さんの活動、協会運営等さまざまな方面に影響が及んで

います。幼児、小学生から成年一般に至るまでの全ての会員の皆さんが行動制限の対象となっていました。

このような中で３月１９日代議員会を開催して、令和４年度事業計画、予算案及び役員がきまり、新年度がスタートしました。まだまだコロナ禍が続くと思われますが、コロナとつきあいながら各事業等を実施していきたいと思いますので、よろしくご協力方お願いいたします。

特に重点事業として、Ｓ／Ｊリーグ２０２２鳥取大会をリベンジ申請し、開催地として決定され、１２月４日に開催することになりました。まだ対戦カードは、決まっていませんが皆さんの協力を得ながら、大会を成功させたいと思います。

また、２巡目国体が２０３３年に開催予定で、協会としても幼児教室等を開催し、将来の選手の育成に尽力してまいりますので併せてご協力をお願いします。

総 務 本 部

総務本部長　植田　睦美

令和４年３月１９日開催の令和３年度第２回代議員会において、令和４年度事業計画等が承認され、新たな１年が始まりました。コロナ禍での協会運営も３回目の春を迎えました。なかなか好転が見られない状況の中ではありますが、With コロナでの各種会議、イベント等の開催に、皆さまの力をお借りしながら努めてまいりますので、ご理解、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

また、この度の代議員会では、長年県協会を牽引いただいた岩垣副会長の退任の報告がありました。岩垣副会長におかれましては、実業団理事として就任され、昭和 61 年には副理事長、平成 19 年からは理事長として、また平成 25 年からは副会長として、昭和、平成、令和に渡り、当バドミントン協会の要として、バドミントン競技の普及、当協会の発展にご尽力いただきました。改めまして深く感謝を申し上げます。令和 4 年度からは顧問として、立場は変わりますが、引続き当協会にご助言いただくこととなります。新たな役員は次のとおりです。

◆鳥取県バドミントン協会新役員の紹介　（敬称略）

顧　問　　岩垣　　毅
副会長　　山本　仁志
理　事　　矢部　典裕　　黒瀬　雅人

◆令和３年度鳥取県バドミントン協会関係受賞者のご紹介　（敬称略）

〇公益財団法人鳥取県スポーツ協会
【スポーツ奨励賞(個人)】　　山根　康平(米子工業高等専門学校)

〇鳥取県バドミントン協会
【顕讃賞(個人)】　　吉野　由美子
【優秀賞(個人)】　　山根　康平(米子工業高等専門学校)

〇他団体表彰
鳥取県教育委員会表彰　　【団体役職員】源　憲治

事 業 本 部

事業本部長　濵橋　喜幸

日頃は協会事業にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

昨年度も新型コロナウイルス感染拡大により多くの全国大会、中国大会、県大会が中止せざるを得ませんでした。その中でも第６４回全日本社会人バドミントン選手権大会鳥取大会が令和３年９月３日(金)から９月６日(水)まで予定されていたわけですが、組合せも終えて準備万端の状態で残念ながら中止となりました。その時に購入してしまっていたポロシャツ、Ｔシャツの販売にも市町村協会、連盟部会、県協会会員の皆様にはご協力いただきました。心より感謝申し上げます。

特に昨年は東京オリンピック・パラリンピック２０２０が賛否両論ある中、無観客試合で開催され、無事閉会をすることが出来たことに安堵しました。バドミントン日本代表選手は期待が大きかっただけにミックスダブルスの銅メダル１個と少し寂しい結果でしたが、他の種目では鳥取県米子市出身の入江聖菜選手(女子ボクシング)は見事金メダルを取られました。おめでとうございます。

さて、令和４年度は、第３９回中国地区レディースバドミントン選手権大会（クラブ対抗、年齢別対抗)（５月２８日～２９日：米子産業体育館）及び、第２３回中国地区シニアバドミントン選手権大会（１０月２１日～２３日：鳥取県民体育館）が 鳥取県内で開催されます。開催地の市町村協会の皆様には大変お世話になりますが、ご協力をお願いします。

◆審判員資格審査検定会の開催

令和４年度の審判員資格審査検定会を、以下のとおり開催します。検定会当日までに（公財）日本バドミントン協会への会員登録を済ませてください。

①　１・２級審判員資格審査検定会

・令和４年８月２０日（土）～８月２１日（日）

・広島市　マエダハウジング東区スポーツセンター（国体中国ブロック会場）

②３級・準３級審判員資格審査検定会

	東部地区	中部地区	西部地区
期日	令和4年6月12（日）	令和4年8月14日（日）	令和4年5月8日（日）
場所	鳥取県民体育館	倉吉体育文化会館	米子産業体育館

強 化 本 部

強化本部長　山本　明良

本年度も継続して強化本部長を拝命し、２年目の大役となります。

昨年度もコロナ禍にあって国民体育大会が中止となり、また、計画していた多くの強化事業を中止・変更せざるを得ない状況ではありましたが、バドミントン・キャラバン、幼児を対象にした親子でバドミントン教室等、強化・普及に向けた事業が実施できたことは良かったと思っています。

さて、強化本部においては、本年度も次の大きな２つの柱のミッションの下、強化事業、普及・指導事業を進めています。

①　各種目が継続的に本国体ベスト８を果たすべく強化を図る。

②　スポーツ指導員資格の取得を促進し、指導力の向上を図る。

強化事業においては、既に実施している中学生サーキット大会に加え、新たに小学生サーキット大

会を新設し、競技力向上に意欲のある子どもたちの強化を図っていきます。
また、長年、実施してきました、わかとりバドミントンサーキットを廃止し、強化指定選手のみを対象とした小中高バドミントンサーキットを新設し、強化指定選手を小中高一貫での強化に力を入れていきます。

更に、普及・指導事業においては、スポーツ指導員資格（コーチ１）養成講習会を開催し、指導者育成を行うと共に、幼児を対象にした親子でバドミントン教室も東部・中部・西部地区の各々で開催し、バドミントンの普及を図っていきます。

本年度より、鳥取県においても二巡目わかとり国体に向けた動きが出てくると思いますので、強化本部としても鳥取県との連携を密にし、県民の皆様からのご期待に沿えるよう尽力いたしますので、皆様のご協力をどうぞよろしくお願い致します。

◇◇◇◇　2021 年　回顧　《 TOKYO 2020 より》

～国際審判員への道～自分が見てきた世界

BWF 世界バドミントン連盟認定国際審判員
辻中孝彦

【オリンピック決勝という舞台】

令和３年７月３０日（金）、東京オリンピックバドミントン競技混合ダブルス決勝のコートに私はいた。この日の朝の審判ミーティングで、金メダルを決める決勝の審判担当が発表された。そこには Takahiko Tsujinaka(JPN)の名前があった。混合ダブルス決勝の判定の重責が私に命ぜられた。

試合が始まる、一点を争う攻防、好試合だ。自分の２１年間の経験をすべて凝縮したような時間が過ぎていく。試合は、いよいよゴールドメダルポイントへ。心が震えた。金メダルポイントが決まった瞬間、勝者の中国ペアはコートに倒れ、泣き崩れて号泣している。コーチが駆け寄る。また、号泣である。抱き合い、お互いを讃え合う勝者と敗者・・・ここに来るまで、どれだけの、努力、苦労、犠牲を払ってきたのだろう。国を背負い、国民の負託を一身に背負い、この舞台を目指し・・・想像を絶する困難を乗り越えてきたのだろう。これがオリンピックの決勝という舞台である。試合が終わる。決勝担当の審判員が戻ってくる。主審をはじめ、みなで抱き合い、号泣する。オリンピックの決勝審判に選ばれ、その責任を果たした達成感等々・・・・。中には床にうずくまり号泣する審判員。彼らもまた多くの犠牲を払い、努力を重ね、国の期待を背負い・・・・これもまたオリンピックの決勝という舞台である。

決勝の審判が終わり、ふと我に帰る。自分の胸の中に熱いものがこみ上げてきた。「今、自分はオリンピックの決勝の判定の重責を成し遂げたんだ。」と同時に、今自分が成し遂げたことの大きさ、偉大さに鳥肌が立った。

国際審判員になって２１年。目を閉じると、今までのいろいろなことが走馬灯のように思い出された。思えば４４年前、私がバドミントンを始めた中学１年生のころ、この日、この時、私がオリンピックの決勝の審判をすると誰が想像したであろう。長い年月を経て、でも多くの人に支えられこの日を迎えることができたのではないだろうか。